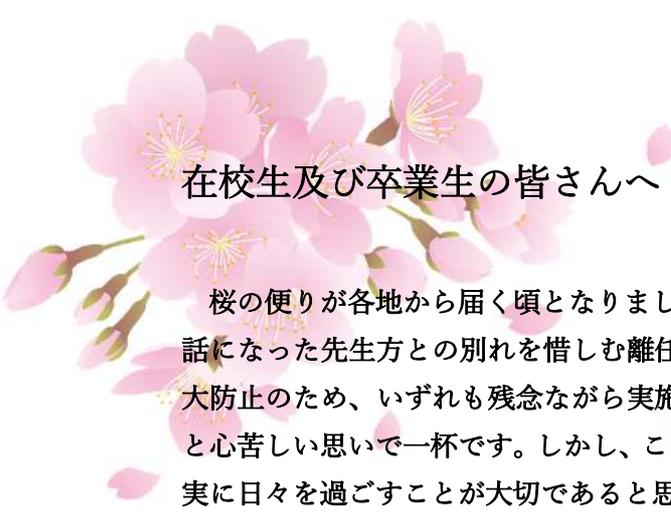


# 離任される先生方から



沼津市立沼津高等学校・中等部



## 在校生及び卒業生の皆さんへ

沼津市立沼津高等学校・中等部校長 清水正信

桜の便りが各地から届く頃となりました。例年ですと、学年を締めくくる、修了式や、お世話になった先生方との別れを惜しむ離任式があります。しかしながら今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いずれも残念ながら実施を中止せざるを得ません。皆さんの気持ちを考えると心苦しい思いで一杯です。しかし、こんなときだからこそ、皆さんは平常心を見失わず、誠実に日々を過ごすことが大切であると思います。

日々、目まぐるしく、様々な情報が飛び交い、今後の学校行事等についても確定できないところですが、新学期に向けて、学校から出された課題やそれぞれの進路に向けた勉強等、各自の夢の実現に向け、できることをコツコツやってください。中学校、高校生活はいつまでも続くわけではなく、皆さんの時間には限りがあります。一日一日を大切に過ごし、「求道」の勇気を持って、各自の道を拓く力を養ってください。

どうか健康に留意しながら、新学期、新学年に備えていただきたいと思います。今後の予定については、HPをよく見て、学校からの新たな連絡等を確認してください。

また、紙面・HPで恐縮ですが、この度の人事異動で転退職される、本校の発展に尽力いただいた先生方・事務室の先生方の、皆さんに寄せられたメッセージをお読みください。

卒業生の皆さん、世間が少し落ち着いたら、進学先や職場での様子を知らせに、是非、本校に足を運んでください。また、在校生の皆さん、新学期がスタートして、元気な皆さんと会えるのを教職員一同、楽しみにしています。(令和2年3月26日)

# 離任される先生方から

## ～高校～

教頭 稲木 和彦 先生

みなさん、大変お世話になりました。何事も楽しむためには、その力が必要です。みなさんも勉強、部活動など、しっかりと力を付け、学校生活を楽しんでください。

渡邊 博子 先生

市立沼津高校には8年間勤めさせていただきました。8年は、私の教員生活の中で最長勤務期間の学校です。生徒も先生方も非常に良い人たちが多く、楽しい教員生活を送ることができました。そのため、お別れするのは非常に寂しく、もっと勤めたかったなあと思いが湧き上がります。

コロナウイルスが猛威を振るい、先が見えない不安がありますが、今、この時代、先が見えないことはコロナウイルスだけではないと思います。様々なことが多様化、複雑化し、先が見えない、読めないことは当たり前のことなのだと思います。そういう時代の中を、強かに、そしてしなやかに生き抜ける力を皆さんには持ってもらいたいなあと思います。

最後に、皆さんの明るさ、優しさ、そして元気な挨拶は他のどの学校にも負けない強みだと思います。私自身、皆さんからたくさんの元気をもらい、今まで頑張ってくられました。8年間、どうもありがとうございました。皆さんのますますの活躍を心から祈っています。

杉山 裕也 先生

「心外無刀」

杉山 ジョイ裕也

わたしはこの学校に8年間お世話になりました。そのうちの5年間、剣道部顧問として部活動に携わりました。本校の剣道場の名前をみなさんにご存知でしょうか。道場の名前は「無刀堂」。流派の名称は「無刀流」。やたらと「無刀」という言葉が出てきます。不思議ではないですか。剣道とは剣（竹刀）を持ってお互い一本を取り合う武道です。それなのに「無刀流」、刀無しとはどういう意味なのか。

その疑問の答えが剣道場に掛かっている道場訓「心外無刀」という言葉です。道場訓とはその道場で稽古をする際に、大切にすること柄や精神を記したものです。本校の道場訓「心外無刀」は、そのまま読めば「しんがいむとう」、書き下して読むと「心ノ外（ほ

か) 二刀無シ」。意味を簡単に言えば、「剣を持っていても持っていないくても、一番大切な「刀」は「心」の他にありえない」ということでしょうか。

剣道とは一対一で相手と向き合う武道です。相手と向き合うということは、自分のことばかり考えていてはダメで、相手のことも考えなければなりませんし、相手のことを考えると「自分は相手よりも弱いのではないか」とか「今打っていけばやられてしまうのではないか」、「本当に勝てるだろうか」など自分の恐怖心や不安との闘いになります。そうになるとやはり「心」というのは剣道で一番大切、というのも納得です。

そんな中、最近の高校生の剣道選手を見ていて思うことをふたつ挙げます。まず相手の竹刀と自分の竹刀を接触させず、自分のタイミングで自分勝手に技を出す選手が増えてきたこと。そして試合前や日常でのあいさつができなくなってきたことです。

自分と相手の竹刀を接触させないで自分勝手に打つということは、当然技も決まるものではありませんが、それ以上に「相手と触れ合うのが怖い」という印象を受けます。年々相手との接触を嫌う選手が増えてきました。そういう選手はきっと、日常生活でも他者との関係づくりがきっと下手クソなんだろうな、と思ってしまう。事実、選手の顧問の先生にそのことを尋ねると、そうだったりするのでびっくりです。

あいさつも、本当にあいさつをしないという意味ではありません。互いに心と心を合わせて、目と目を合わせてきちんとあいさつができないということです。剣道の試合前のあいさつでは、審判から礼の号令がかかることはありません。選手同士が、互いに呼吸を合わせて自分たちで礼をします。心と心、目と目を合わせて礼をすることが大切ですが、これができない。試合場を離れた場のあいさつでも、相手の目も見ないで「チワッス！」とかあいさつしてくる。中にはこちらが何か仕事をしていて、注意が向いていないときに背後からでえ声で「コンチワ！」とか。びっくりして縮んだ寿命を返せ。とまあ相手のことを考えない自分勝手なあいさつが増えてきたわけです。

ここまで本校の道場訓「心外無刀」、竹刀の接触、あいさつと剣道のことを話してきた気がしますが、これらが剣道だけに言えることではないということにお気づきでしょうか。あいさつや人との関わりというのは、何も剣道だけではなく、日常生活でも言えることです。この学校はあいさつができる学校だな、というのが8年前のわたしの市立沼津のイメージでした。今はどうでしょうか。互いに目と目を合わせて、心と心を合わせて、相手のことをきちんと見てあいさつはできているでしょうか。自分勝手にあいさつしていないでしょうか。自分勝手と言えば他者との関係づくりでも、自分勝手に投げっぱなしの言葉を使っていないでしょうか。きちんと会話のキャッチボールができているでしょうか。相手ときちんと目と目を合わせて、心と心を合わせてコミュニケーションがとれているでしょうか。友達とはとれていますか。クラスの仲間とはとれていますか。先生たちとは、家族とはとれていますか。相手ときちんと向き合う、そこにわたしは「心」があるのだと思います。

またこれからの人生の中で、君たちは様々な壁に立ち向かっていく時が来ると思えます。その時に「自分にできるだろうか」とか「失敗するのではないか」などの恐怖心や不安とどう闘うか、それもまた剣道と同じ。自分の中の「心」と向き合い、それらの感情と

闘って「それでも！」と言える人間になりましょう。「心外無刀」、心の外（ほか）に刀無し。剣を持っていてもいなくても、いつでも一番大切なのは「心」です。自分がやれると信じれば、どんな困難なことでもいつかは成し遂げられます。逆に自分ができないと思えば、どんな簡単なことでも絶対に成し遂げられません。すべてのスタートは自分の「心」です。自分の「心」と、相手の「心」と、それぞれきちんと向き合い、コミュニケーションを大切にしながら、強くしなやかな「心」で生きましょう。「心外無刀」、わたしはこの言葉が好きです。君たちもこの言葉を知り、大切にしてもらえると嬉しいです。

P.S.文章の量の都合で書きませんが、わたしはこの学校の校歌も大好きです。歌詞に思いをめぐらせながら、校歌もぜひ大切にしてください。

## 林 慈子 先生

この度の人事異動で清水東高校へ異動することになりました。市立沼津高校で過ごした4年間は私自身にとっても大変勉強になる時間でした。優しく暖かな生徒たちと、生徒の成長を切に願い、教育に一生懸命な先生方。市立沼津の一番の財産は、この「人」と感じています。在校生の皆さん、先生方の話を是非よく聞き、よく考えてください。先輩やクラスメイト、後輩や仲間の話も、自分のこととして聞いて考えてみてください。きっと皆さんの成長のヒントが散りばめられています。是非それを毎日の生活の中に取り入れてみてください。そうした小さな成長を3年間重ねていけば、卒業する頃にはこの先の人生を豊かに生きていくだけの力がつくはずです。この学校は生徒を大きく成長させてくれる学校です。先生方を、仲間を、そして自分の可能性を信じて、精一杯頑張っていってほしいと思います。皆さんの成長を傍で見られないのは心残りではありますが、離れていてもいつも皆さんのことを応援しています。

## 岡野 裕樹 先生

1年間の短い間でしたが楽しかったです。ありがとうございました。

1年間を短いと形容することに違和感がありますが、高校生的にはどうでしょうか。

時間の感じ方は人によって差異がありますが、アインシュタインが相対性理論を説明する際にした例え話に従えば、

「美人と話す1時間は1分に感じる」訳で、私にとってこの1年間は美人と話すのに匹敵するものでした。

皆さんの高校生活もそうであることを願っております。

## 小林 千尋 先生

2016年秋頃から中等部でお世話になりました。その頃の中等部生は、泉先生ロスによって大変悲しんでいましたね。中等部の行事で特に印象に残っているのは、合唱コンクールです。朝から帰りの会まで、毎日きれいな歌声が聞こえて、仲間とぶつかりながらも、最後にはクラスが団結して一つのものを創り上げる姿に大変感動しました。

現在の2年生と共に、高校に進学しました。この約3年間で、心も体もこんなに大きく成長するんだと教えてくれました。1年生も一緒に高原教室や遠足に行きましたね。みなさんの卒業を見届けられないことが、本当に心残りです。

私は、働き始めてから「人生でやりたいことリスト」を作りました。やりたいと思った気持ちを忘れないようにするため、やりたいことのために頑張るためです。

アルパカとカピバラに会いに行きました。のんびり過ごしていていいなあと思いました。バンジージャンプをしました。もう二度とやりたくないと思いました。でも、勇気を振り絞った自分を称えたいくなりました。そんなこと…と思われるようなことでも、一喜一憂した自分の気持ちや思いを大切にしていきたいのです。

みなさんのおかげで成長できました。とは言ってもまだまだ未熟者。今日の経験が明日に繋がるように、私も夢に向かって歩み続けていきます。これからも共に、前向きに頑張りましょう！約3年間ありがとうございました。

## ～中等部～

### 教頭 塩崎 哲治 先生

この学校での2年間を振り返ると、『啐啄同時(そったくどうじ)』という言葉が浮かんできました。「学ぼうとする者と教え導く者の息が合って、相通じること。鳥の雛(ひな)が卵から出ようと鳴く声と、母鳥が外から殻をつつくのが同時であるという意から。」という意味です。目標に向かってがんばろうとする中高の生徒の気持ちと、その気持ちを汲んだ先生方がサポートする姿が、いろいろな場面で見られたからです。この学校の生徒だからこそのことを追い求め、夢の実現を目指してください。2年間、お世話になりました。ありがとうございました。

### 板垣 貴裕 先生

「あすへのゆめをみつけ、あゆみ続ける」これが本校のコンセプトです。自分はこの「あゆみ続ける」というフレーズがとても好きです。試験の結果、入学試験、就職試験・・・人生で目標とするべき出来事はたくさんありますが、そのどれが終わっても本当の終わりではありません。試験が終われば次の試験が。入学試験が終われば新しい学校生活が。就職試験が終われば社会人としての生活が。何かが終われば新しい何かが始まります。だからこそ私たちは現状に満足せず、「あゆみ続ける」べきなのだと思います。この学校に自分がいられたのは短い間でしたが、その間に様々な場面で目標に向けてあゆみ続けるみんなの姿を見させてもらいました。この学校で過ごした時間がみんなにとってかけがえのないものになり、これからもあゆみ続けるための糧になることを願っています。

### 能戸 健太 先生

市立沼津中等部に5年間勤務させていただきました。あっという間の5年間でしたが、たくさんの思い出があります。目標に向かって真っすぐに歩むみなさんのそばに居られたことが何より幸せなことでした。今後も様々な分野で活躍するみなさんの姿を楽しみにしています。ありがとうございました。

丸山 真一 先生

# ARIGATO

message for you

## 12期生へ

前任校で涙の別れをしてきた私と初めて出会ったのがみなさんです。みなさんが、私に中等部という学校を教えてくださいました。そして、送り出した生徒が高校でどのように成長していくのかを見せてくれました。ありがとう。

## 14期生へ

みなさんとは、1年と3年で授業を受け持ちました。授業では、6限にもかかわらず、笑顔で前向きに取り組んでくれました。みなさんの高い集中力のおかげで、救われた授業が何回もありました。

## 16期生へ

みなさんとすごした2年間は、とっても楽しかったです。みなさんの笑顔が作る温かい雰囲気毎日癒されていました。大きすぎる笑い声や底抜けの明るさは、中等部歴代1位かもしれません。ありがとう。

## テニス部員へ

テニスは日焼けするスポーツ!そんな定説に負けないように日焼け止めを塗っていた生徒、潔く日焼けした生徒。そんな君たちが、試行錯誤しながら練習し、大会では一喜一憂する中、どんどんたくましく成長する姿を近くで見ることができました。そもそも、経験のない私とテニスを結び付けてくれたのは、そんな一生懸命に取り組む君たちでした。これからも大好きなテニスを中高仲良く続けてください。ありがとう。

## 13期生へ

みなさんとは、中学3年生のときに出会いました。修学旅行で、被爆ピアノでの伴奏による合唱が、とても思い出に残っています。ろうかに掲示し続けた活動記録の写真を作ることがとっても楽しかったです。ありがとう。

## 15期生へ

みなさんとは、1年と3年で授業を受け持ちました。授業では、毎回の3問テストに最も情熱を傾けてくれたことが印象的です。また、弁護士を招いての裁判員裁判では、とっても楽しい授業ができました。ありがとう。

## 17期生へ

みなさんとは、授業で直接かわることはありませんでしたが、ろうかを歩く姿や部活の生徒達を見ていて、勝手に、明るい学年なのだろうと思っていました。ありがとう。

## 高校生へ

一貫性ではない高校生徒とはあまり関ることはできませんでしたが、授業や鷹峯祭などで話しかけると、笑顔でこたえてくれました。シニアティーチャーでもたくさん協力してくれてありがとう。

なれるからなるんじゃない!  
なりたいからなるんだ!

なりたい自分になれ!

10年後の自分は、  
自分で決めろ!



## ～非常勤の先生～

高木 郁子 先生

高木郁子です。

情報の授業を担当しました。(※情報は2003年から新設された教科です)

高校1年生のみの授業なので、覚えている人のほうが少ないかもしれません。

市立高は私の母校でもあり、縁あって働くことができたことに感謝しています。

高校を卒業してから久しぶりに(久しぶりどころのレベルじゃないけど;)訪れた校舎はすっかり綺麗に生まれ変わっていましたが、学校内はまだあの頃のままの場所もあって、懐かしく思ったことを覚えています。行事で校歌をすぐに歌えたこと、かつての恩師に再会できたこと、吹奏楽部に混じって野球応援に行ったこと…。他にもたくさんの思い出があります。

ずーっといると思っていたのですが、旅立ちの日が来てしまいました。

いくつになっても新しいことに挑戦して努力をつづけ、自分と向き合っていきたいと思います。

14年間、大変お世話になりました。

渡邊 和加子 先生

私は、常日頃「今、目の前にある緑を大切に生きていこう。」と強く思っています。それは、私の人生の中で緑が緑を呼ぶという経験が多いからです。今ある緑を大切にすれば、次の素晴らしい緑につながっていきます、それは、自分自身の緑ばかりではなく家族など身近な人の縁にもかかわりがあるように感じます。だからこそ「今、目の前にある緑を大切に。」なのです。さあ、次の緑へ向かいます。皆さん、またどこかでお会いしましょう。

他 風岡 雅頼 先生、橋本 要 先生、岩田 雅子 先生、

加藤 広之 先生、山田 きくみ 先生 が離任されます。

## ～事務室～

事務 勝又 弘恵 さん

市立高の皆様へ、3年間お世話になりました。ありがとうございました。市立高での3年間はあっという間で、楽しく仕事をする事が出来ました。なぜなら熱心な先生方の指導のもと、生き生きとした学校での生活を送る生徒達とともに過ごすことが出来たからです。たとえば、鷹峯祭など大人の私たちもワクワクしました。今年は自分の息子も中学3年生になります。子供にも、子供の友達にも市立高の楽しい所・良い所をアピールしたいと思います。今後も皆様のご活躍をお祈りしております。

事務 武井 淳子 さん

おもしろき こともなき世に おもしろく  
すみなすものは 心なりけり

(高杉晋作の句)

事務 鎌井 早苗 さん

お世話になりました。ありがとうございました。

用務員 落合 泰夫 さん

お世話になりました。

用務員 八長 広志 さん

2年間、事務職員（用務員）として、母校である市立沼津に戻って来られた事に感謝しております。

生徒の皆さん、将来の目標を作り、その目標に向かって日々の精進を怠らず、学校生活を送ってください。

大変お世話になりました。